金目川のサクラ　　（２０２０．４）

毎年、４月になるとサクラの開花、満開の時期に関心が寄せられます。残念ながら本年のサクラは、「新型コロナウイルス」の蔓延を予防する観点から、上野公園の花の路が封鎖され、他の地域でも、満開のサクラ木のもとで花見の会も禁止されました。

私たちの金目川の土手沿いの桜並木は、かつて、地元の人々の目を楽しませた上に、広く湘南地方からの花見客でたいそうな賑わいを見せたときもありました。

神奈川新聞の前身「横浜貿易新報」には、金目川のサクラについて記載されています。

記事の見出しを年代別に集めました。

● 明治期

（年）	（西暦）	（月・日）	（見出し文言）
明治４３	１９１０	３・２６	金田の桜植付（金田村　金目川堤防に）
		４・１３	金目川堤防の桜（金田村　桜満開盛況）

・ 明治４３年：「金田村のサクラが満開」の見出しです。前の年には「桜植え付け」とありますのでこの時期、金目川の金田地区の土手沿いに桜の木々が花を付け、より一層の花をと、植樹が進められたようです。人々が花見に魅かれるように開花を楽しんだ様子が知れます。

● 大正期　（大正１５年頃までには、金目村の見出し記事が記載されます）

大正　２	１９１３	４・　８	金目川の満艦飾（両３日が見ごろ）
		４・　９	日曜と金目堤防（桜満開盛況）
３	１９１４	３・２５	金目川堤の桜花（４月初旬が真盛り）
		４・　１	金目桜の見頃　（金目村　３日頃が満開）
５	１９１６	４・１４	金目堤花爛漫（金田村より金目村）

・ 金目川堤のサクラは、金田村から金目村に至る土手沿いにわたって、見事な並木が続いていたようです。

８	１９１９	４．　３	桜花盛りの金目片岡堤（仮装行列の賑わい、写真あり）
１０	１９２１	４・　２	平塚の桃花と桜花
		４．１０	郡役所の観桜会

・ 大正１０年（１９２１）４月１０日　郡役所の観桜会
『 中、愛甲両郡役所会同し９日午後１時より金目川堤防金田村字長持に於いて観桜会を催したるが参会者６０余名にて盛会なりし 』の記事。役人を見学、動員させるようなサクラ並木でした。

１２	１９２３	４．　３	東久邇宮殿下　金目桜へ御成り被遊

・ 大正１２年（１９２３）４月３日　　東久邇宮殿下　金目桜へ御成り被遊
『 大磯にご滞在遊ばさるる東久邇宮若宮殿下には昨２日正午頃自動車にて金目堤御見物に御成りあそばされた 』　サクラは宮様をも魅了し、見物に導いています。

・ 大正１２年（１９２３）４月４日　（広告が掲載されています）

金田の櫻
見頃は近づけり

記事　　金田の桜　　見頃は近づけり

名所金田の桜は平塚を距る２０町金目川の清流を挟んで１０数町の間３重に連なりてその美を誇り、自然の風光と相和して一層の美観を現はし近時都人士の杖を曳く者益々多く実に県下第一の盛観たり。本年は「開花遅るべし」の予期は裏切られて気候の激変のため４月６・７日にはその美の極点に達すべく思ふに節句より８日の日曜にかけては恰も上野、浅草の混雑を思はしむべし、桜樹の畔大小５０余の掛け茶屋は全部完成して客待ち顔なり

聞くならく地先金田青年団は永遠の策を講ぜんが為に掛け茶屋に徹底的干渉をなし売品の粗悪なるものを一掃し可成的良品を低廉に販売せしめんとて一定相場を設けたり一例を挙げんに酒の如きは一定品を販売せしむる事とし近時名声嘖々たる灘西の宮日本酒造株式会社の「君万歳」を桜樹の下隈なく陳列して一定値段を以て販売する事とせり惟ふに観客は茶屋に憩ふ前に予め消費額を定め安んじて一日の清遊をなし得る趣向に外ならず因みに土手下の神部酒店は此際破格値段を以て酒類一切を提供し犠牲的に顧客の斡旋と便宜を図ると団体客等は前以て同店に紹介すれば万事都合よく非常に便益多しと云ふ

要するに掛茶屋の自覚と青年団の活躍とは相俟って益々この地を発展に導くに到らん

・『 掛け茶屋 』: よしずを張り、椅子・机を備えた簡単なお茶屋
　記事からは茶屋とはいえ、酒をふるまうことが分かります。花見にお酒は付き物です。

１１	１９２２	４・　５	金目堤の喧嘩（３日水兵と職人の衝突）
１２	１９２３	４・　５	平塚婦人矯風会　金目桜芸妓見番撤廃を伊勢原署に出願 警察本部も同様意見
１４	１９２５	３・２７	金目桜と芸妓（平塚婦人矯風会、芸妓出張撤廃運動）

・　花見客の賑わいは、争い、けんかが起こります。その上、掛け茶屋には客をもてなす芸子、仕切りの人なども進出していたようです。
　風紀上の問題が多出。平塚市内の夫人の会が取り締まりを求めて訴え出ています。花見に伴う風紀が社会問題化しています。
　当時、平塚には警察署がなく、伊勢原署管内でした。

１５	１９２６	１・　８	金目の桜全滅す（河川改修の犠牲）

・ 金目川の河川改修 : 氾濫防止のために、堤防も改修され、河岸のサクラ木が伐採され、サクラの木々がなくなりました。

● 昭和期

昭和　２	１９２７	４・１１	金目堤の名花を失ひ行楽を外に求め行く
３	１９２８	４・　７	春色濃やかな湘南の天地（春花に飾られた平塚・大磯）
		４・　９	南原堤の桜（満開は１２・１３日頃）

・ 金目、金田のサクラの花は、中心地が南原地区に移りました。

４	１９２９	４・　４	お花見は何処へ見ごろは７・８日県下の桜名所を訪ねて（南原堤の新名所地）

５	１９３０	４・　８	花見客に化けて飲食物一斉検査（５・６日、平塚他）

・ 花見客対象の飲食物の販売は、多くの問題が生じたのか、花見客を装った検査が行われました。

６	１９３１	３・１７	金目川堤の桜を昔の姿にしたい（川沿いの住民）

・ 文言からは、サクラの名所が南原地区に移り、加えて、金目、金田地区は往時の盛況を取り戻すべく、住民の活動が始まったようです。

１０	１９３５	４・　１	金目堤の桜　３日が見頃（平塚市郊外金目川の堤）
１１	１９３６	３・２５	桜の金目堤を往年の姿に（掛茶屋その他施設成る）
		３・３０	湘南の歓楽郷　各地の招客施設（金目堤・平塚海岸等）
		３・３１	金目堤の桜（ポスターで宣伝）

・ この頃からの見出しには、金目、金田、南原などの特定の地名が薄れ、「金目川の堤」、「金目堤」という表現が目立ちます。金目川の土手続きのサクラ並木がしのばれます。
・ 掛け茶屋が復活し、「湘南の歓楽郷」の表現が飛び込みます。

・ 昭和１２（１９３７）年から１９（１９４４）年には、

１６	１９４１	３・２８	湘南の花信（金目町南原堤の桜は４月４・５日頃が見頃）

この見出しを除き、サクラの花の記載は、姿を消しました。戦時色の強まりでしょう。
戦争は、サクラ花を愛でるという市民の心を奪ってしまいました。

２０	１９４５	２・２７	金目の桜も木炭に（２５日から伐切）

・ 戦争末期の２月、多くの人たちの心を癒やしたサクラ木は木炭に姿を変えました。壊滅的です。

＜金目川左岸・長瀬地域に設置の解説板＞

金目川堤の桜

明治３９年（１９０６）ときの神奈川県知事周布公平の勧めにしたがい、南原、長持、飯島、片岡、南金目にわたる金目川の左右の堤と秦野道に吉野桜数百本の苗木を植え付けた。その後苗木はすくすくと成長して、大正５年ごろには見事な花を咲かせた。

この両岸４キロメートルにわたる桜並木の満開のときは、雲のようにたなびきつづける桜の眺めであり、花見客を魅了するに充分だった。そしてだれ言うとなく「南原の桜」、「長持の桜」、「金目川の桜」などと言いはやした。大正時代から昭和の初めごろは、花見の時季になると平塚駅は京浜地方から来る花見客で混雑した。花見客は金目川堤の桜のトンネルに来ると、そこには団子屋、すし屋、甘酒屋、おでん屋、めし屋などのヨシズ張りの仮小屋があり一日の行楽を楽しんだといわれる。

この桜並木ものち樹勢も衰え、残存の木も激減したので、昭和４４年に補植し、現在に至っている。

神奈川県

・ 神奈川中央交通　平塚・秦野線の「長瀬バス停」付近に設置されています。

● **サクラの花に魅かれた地元の人たちの思い出を、紹介いたします。**

・ おきや（茶店）がでたり、臨時列車が出るくらい賑わった。

・ 入野付近は、土手が三列あり、実にきれいに咲いていた。仕事中も、たまらず花見に出かけた。今、ああいう花見は、日本中どこにもない。

・ 金目川の花見は賑やかで、格好の場所を前もって取りに行った。

・ 花見の季節の桜はきれいで、小学生の頃に見に行った。　桜の木は、南原から小川医院までぐらいに咲いていて、小屋が架けられ芸者の三味線も聞こえた。桜はアーチ状で実にきれいだった。

● 金目川土手のアーチ

（２０１８年４月）

右側の道路は、神奈川中央交通平塚・秦野線です。

左側は金目川の流れ。手前が下流になります。

中央の歩道は通り抜けのできない、わずかな距離。

かつての金目川のサクラは、このように咲き乱れていたのでしょうか。

● 現在の金目川堤のサクラ（長瀬地域）

平塚・秦野への金目川土手上の道路です。遠くに大山。
サクラの並木も古木です。バスや乗用車の通行の邪魔か、伸びる枝が切除され、見ての通りです。
紹介した貿易新報の見出しのような風景は、思い出のみとなりました。

すっかり年を重ねたサクラ木の古木です。

　道路端の歩道に見られる円形、何かの蓋(ふた)でしょうか？　至近距離で並び続きます。

朽ちたサクラ木を取り除いた後、歩道を維持するために舗装された跡です。
　かつては、ここに大きなサクラ木が並木になっていました。
想像してください、木々が並び、満開となったサクラの姿を。

　一度失った自然は、容易には取り戻せません。
自然環境を保全することは、次世代のために、人類のために必須の要件ですね。